

特250

369 6

博士 平田篤次著

最新の特疾根治療法

愛生社發行

始



特250
369



醫學博士

次著

最新の痔疾根治療法

(痔核、痔瘻、脱肛等の非手術的薬劑塗布療法)

愛生社發行



自序

私は元來が内科醫である。特に肺結核の診療には多年従事してゐるものである。結核患者には痔瘻とか、痔核とか痔の病氣が仲々多い。この痔があると肺病が治り悪い。痔核等であるとき々大出血を起して貧血になる。栄養を高めて血を増やさねばならぬ肺病に貧血は大禁物である。普通の健康人でさへ痔核があると貧血を起して神経衰弱となる事が多い。況んや肺病に於ておやである。

又痔瘻に到りてはその惨害一段と甚しきものである。痔瘻のために、常に膿汁がジク／＼と流れ出す。この膿の排出は痔瘻の存する限り絶ゆる事がない。元來膿になる成分はいづれも血液から來るもので、貴い栄養分である。こんな良い栄養分が流れ出すものだから、栄養はますます悪くなる許りである。従つて結核にはそれだけ悪い影響が生ずる。肺が治り悪くなる。

其の上に痔瘻には時々疼痛がある。膿瘍を生ずる。便通にも苦痛を感じる。かうして痔が永引くと神経過敏になり、遂には肛門性の神経衰弱となつて、いやが上にも結核には悪い事になる。さうなるとどうしても根治療法が必要になつて来る。さて根治手術をすると、手術の前後の食事の制限とか、或は便通を止めるとか、麻酔を用ひるとか、手術に對する恐怖とか、其影響は仲々大變なもので、結核治療の上に時には不良な結果が来る事がある。

昔から結核患者等が痔の手術を嫌ふのは、これ等の點からも來てゐる。甚だしいのになると痔を手術すると、肺病になる等と恐れられたものである。

注射療法も又大きな痔核には注射が出来るとしても、極めて小さい痔核には注射する事は不可能である。従つて其小さい痔核が発育した場合には、それが再發となる理である。又時には副作用もなしとはいへぬ。

私はこんな點からして、何とかして手術せず又注射もせず痔を治す方法はないものかと随分と調べてみたものである。

この様な事情が基礎となつて内科醫の私が痔の治療に志したのである。

昭和十年五月

著者識す

目次

緒言	痔とはどんなものか	一
第一章	痔核（イボヂ）	一
	痔核はどのようにして發生するか——痔が出來るとどんな症狀を起すか疼痛——出血	
	痔核の脱出——便秘——姿勢の變化——貧血——痔核の嵌頓——痔核の根治療法	
第二章	痔核（アナヂ）	一〇
	痔瘻はどうして發生するか——痔瘻の症狀（局部症狀）——痔瘻患者の全身症狀	
	痔瘻の根治療法	
第三章	脱肛	一六
	脱肛の症狀——脱肛の根治療法	
第四章	肛門裂創（キレヂ）	一八
	肛門裂創の原因——肛門裂創の症候——肛門裂創の根治療法	

第五章	肛門瘻 痒症	二〇
	瘻痒症の根治療法	
第六章	肛門周囲炎	三三
	肛門周囲炎の原因——肛門周囲炎の根治療法	
第七章	痔 出 血	三四
第八章	結 論	三四
附 録		
	痔疾と栄養との關係	三七
	痔疾と結核との關係	三一
	痔疾家庭療法の可否に就て	三三

最新の痔疾根治療法

——(痔核、痔瘻、脱肛等の非手術的薬劑塗布療法)——

醫學博士 平 田 篤 次 著

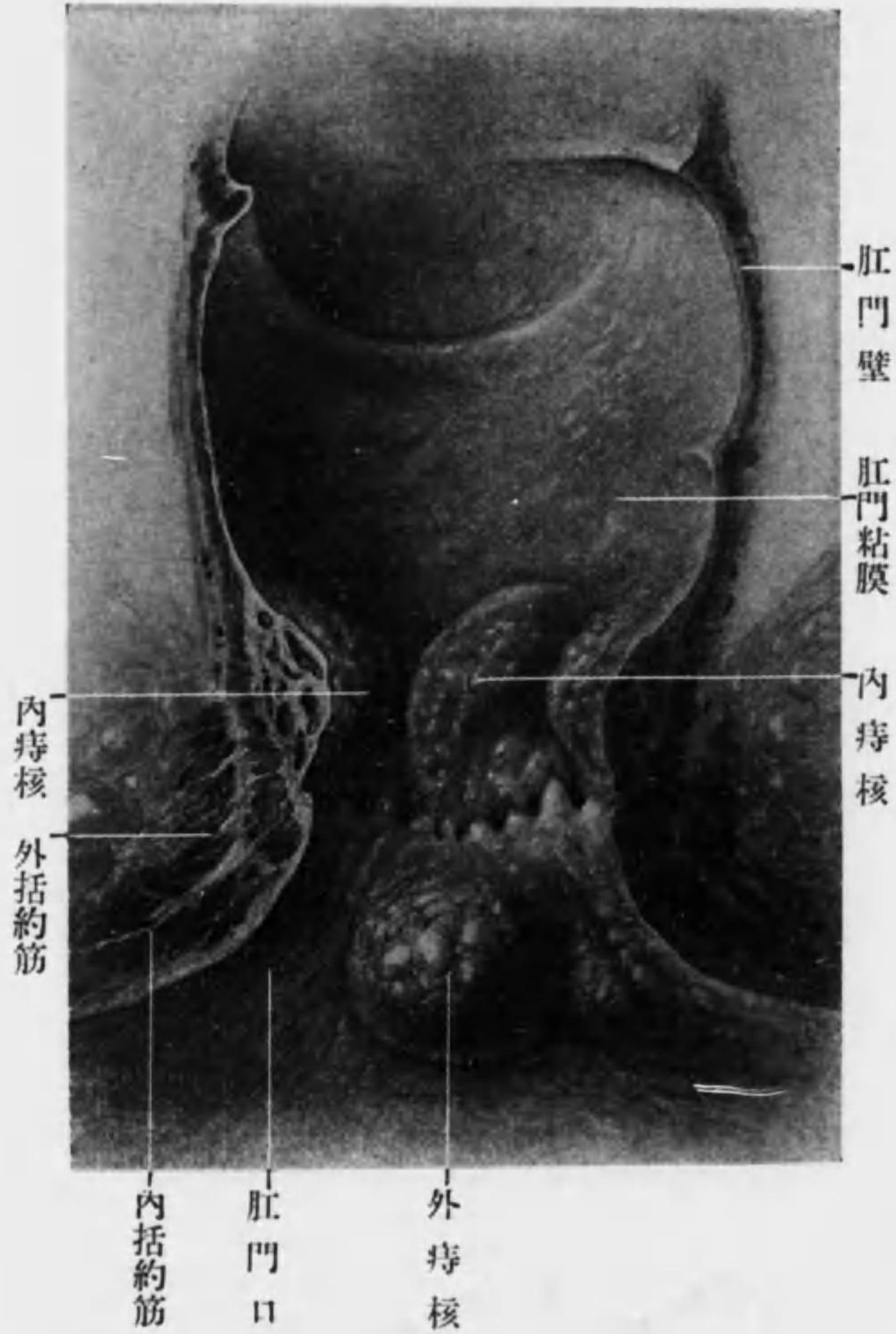
緒 言 痔とはどんなものか

痔といふものは、大體に於て、痔核と痔瘻とに別つてゐるが、この外に脱肛とか、肛門裂創とか、肛門瘻痒症、等がある。此等の病氣は痔とは密接な關係のあるものである。以下順次にこれを説明する。

第一章 痔 核 (イボチ)

肛門の内外に疣の様な腫物が出る。これは主として血管が増殖したものである。

第一圖 肛門部断縦を及膜粘門肛てし斷縦を部門肛 圖一第
 括約筋と痔核との關係を解し示す



二

そして其痔核の形といふものは千態萬様で、球状、壺腹状、蹄形の形したもの、或は葡萄状の形等、大小厚薄一定しない。又其數も一つである事もあり、又數個相連なつてゐる事もある。これも一定しない。この様に形も、數もいろいろあるが、大體申せば血管の塊りである。(第一圖参照)

肛門の内にあるものを内痔核と稱し、外に存してゐるのを外痔核といふ。唯部位によりて名稱を異にするのみである。

痔核はどうして發生するか

總て肛門に鬱血を起す場合は痔の原因になる。即ち肛門附近の血液循環障礙を起す一切の事柄は、痔核の基となる。例へば慢性の便秘であるとか、甚しい下痢、努責、飲酒で腸に鬱血した場合、房事の過度、血壓の高い人、冷へた場合、又婦人には妊娠、分娩による肛門部の鬱血、刺戟性の食物、乗馬、自轉車に乗る事、其他に肝臓や

心臓等の内臓疾患からも来る。

大體肛門といふ處は、胴體の下方にあつて兎角血液の循環がよくない。又毎日の排便作用のために血液鬱滞の傾向あり、不潔になり易く、従つて刺戟も炎症も起り易い。人體の粘膜の中でも肛門粘膜は最も多く、炎症や、鬱血の生ずる個所である。

痔核は多い病氣である。よく詳細に調べれば、殆んど人類の半數か、三分の一位は痔核の所有者である。

又日本には腸の寄生蟲が多い。寄生蟲の中でも撓蟲や蛔蟲は刺戟作用を起して痔の發生を促がす。

痔が出来るるとどんな症状を起すか

第一は疼痛である。この痛みは劇痛の事があり、鈍痛で済む場合もあり又は痛みに癢痒を伴ふ事がある。疼痛は排便後に増強する併し此疼痛は不定で大きな痔核がある

にも拘らず全然疼みを感じない事もある。

第二に出血である。この出血は、僅かに排便時に糞塊の表面を染めるに過ぎない位のもある。又は排便後清拭に用いた紙片に著色して、始めて氣の附く事もあり、或は排便後後に、血液がボタ／＼と落る事もある。或る時は排便後に血液が迸出したり、時には一合も二合も出血して、生命に危険な程の大量の事もあつて一樣でない。この様に大なり小なり出血するため痔の患者は多く貧血してゐる。十二指腸蟲病や、肺病の様に甚だしい貧血になつてゐる事がある。

私は最近に於て或る若い婦人の甚だしく貧血してゐるのに遭遇した。内臓には何の故障もないが唯貧血してゐる。それでよく尋ねてみると、果して痔があつて、既に一ケ年間も少量ではあるが、毎日の様に出血してゐるとの事であつた。こうして貧血の本態を極めた事もあつた。併し時には痔核でも出血しないものもある。

出血の後には往々爽快を感じずる人がある。これは肥大した痔核が、出血によりて小

さくなつた爲である。

第三には痔核の脱出である。

痔核の中で大多數を占めてゐる内痔核は、普通の場合では、一寸肛門を見ても、何の變化も見えないものである。

併し排便の時は糞塊のために、其疣の様な痔核が肛門外に脱出する。この脱出した痔は初期の中は自然と還納するものである。併し段々と進んで来ると、咳や噴嚏をしても容易に脱出する。又長く歩行したり、階段を昇つたりする時には脱出する。尙進んで来ると、少し歩行しても脱出するので、ゴルフや、テニスも逆も出来ぬ様になる。立仕事は不能になる、實に厄介千萬な事である。

排便時に於ては、脱出した痔を手指を以て還納せねばならぬので、長時間を要する様になる。排便時間の長いになると三十分、或は一時間又はそれ以上になる人もある。清拭の紙も澤山に使ふ様になる。先日も一回の排便に數十枚も紙を使ふといふ人

があつた。こうなると苦勞も一通りではない。

第四には便秘である。

痔核の主なる原因は便秘であることは前述の通りであるが、又痔核になると益々便秘の傾向が増して来る。これは排便といふ事が痔核患者には苦痛であるから、自然と排便の苦を厭ふ様になり、従つて常習便秘になり易い。

第四の症状は姿勢が變つて来る事である。

痔核の進んだ人は俯むき加減で、猫脊になり臀部が後方に出て来る。

其他貧血のために顔面が蒼白になつてゐる。動悸がする様になる。總じて痔の患者は神経過敏になり易く神経衰弱の状態に陥り易い。

痔核の嵌頓

以上の症状の外に、痔核には嵌頓を起して劇痛を生ずる事がある。これはどういふ

事であるかといふに、痔核が段々と發育増大して排便時等に脱出した時、何等かの刺戟で肛門括約筋が痙攣を起す事がある。

普通の場合であると、脱出した痔核は自然に、或は又手指を以て還納する事が出来るが、此嵌頓状態に陥つた痔核は普通の方法では還納する事が不可能となる。さうなると括約筋で絞めるものであるから益々鬱血して腫大する。此腫大が甚だしい爲め、光澤を帯び暗黒色を呈して劇烈なる疼痛を起す。

こんな場合、無理に還納を試みると、益々腫大する許りである。

甚しく高度に腫脹した嵌頓痔核は鬱血のため榮養障害に陥り、潰瘍を起したり、大出血を起したり、又は化膿等をして重症な全身症状を發生する事がある。

痔核の根治療法

痔核の根治即ち再發を起さない完全なる治癒は六ヶ敷いものと一般に考へられて居

つた。從來根治法としては手術療法を第一とされて居つた。現在に於ても手術療法は尙旺んに行はれて居る。併し遺憾乍ら手術後の再發は随分實驗される事である。再發の事は第二としても一般の患者は手術を嫌ふものである。たとへ根治すると思ふても、よくくの場合でない手術を諾せないのが事實である。それ故に痔に悩む人は益々多く唯拮息の一時抑への療治や賣薬で我慢をしてゐる。

手術療法以外には注射療法がある。これは腐蝕的藥劑の少量を痔核の中心へ注射するのである。此方法にも一二回で急性腐蝕を起すものと慢性的に何回にも注射するところがある。併し何れにしても痔核が相當の大きさに達し眼に見ゆるもの丈へ注射するのであるから少さなものには不可能である。尙其上に腐蝕された痔核の脱落した場合甚しい出血を起す事がある。其他劇痛、腫脹等の副作用を伴ふ事がある。手術、注射以外に根治療法として最近に非常に發達したものに藥劑療法がある。此の藥劑療法は其藥劑を痔核及び其附近に塗布するのである。即ち肛門部に塗布して

ゐると内痔核の場合には其腫脹によりて自然に肛門外に脱出する。これに藥劑塗布を持續してゐると漸次乾拮して十日間前後にて其痔核は脱落する。又肛門外に脱出しないう様な小さい内痔核に對してはカプセルによつて肛門内へ藥劑を搜入する。

何れにしても藥劑塗布は大凡そ十日間、大きな痔核でも二週間も持續してゐると完全に脱落する。而して脱落後の後療法は軟膏塗布によつて漸次に癒へ約二週間にて全治するものである。即ち藥劑療法開始より後療法の完結する迄三四週間を要するものである。

食事も平常の通り攝取してよろしい。此食物を平常通り食するためには、痔の治療中身體が衰へる事はない、決して衰弱しない。これは大切な事である。手術の場合であると絶食とか、流動食にせねばならない。このために仲々衰弱する。又入浴も毎日自由であるし、排便も常の如く、便通を止める必要も無い。唯局部に塗布した藥劑のとれぬ様に安靜にして居れば良い。出来れば一週間か二週間位安臥し

て居れば尙更良い。

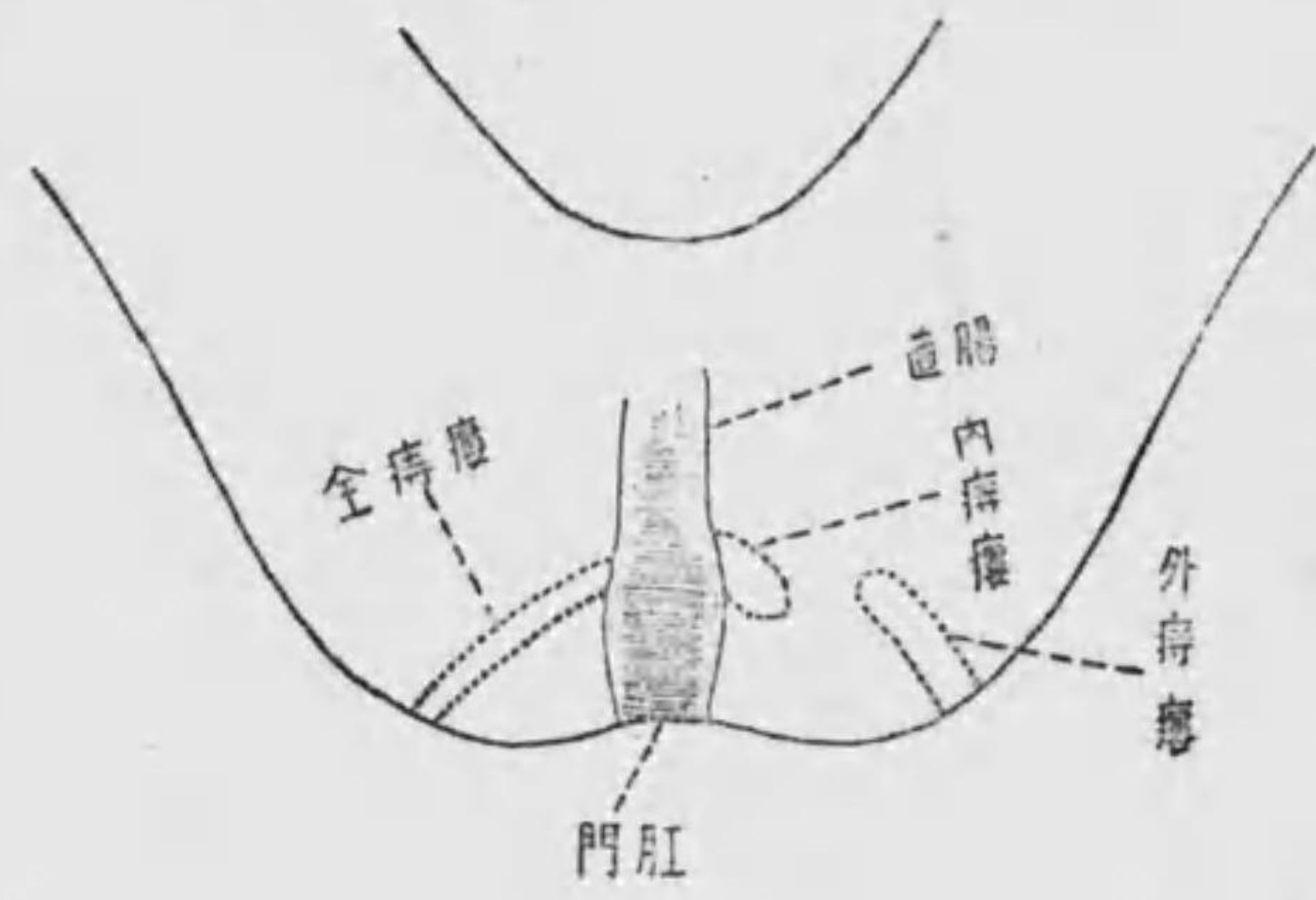
又此藥劑の特徴とする點がある。即ち此藥劑は病的な痔組織のみに作用して、健康な粘膜や皮膚には少しも作用しない事である。それ故に健康な肛門に塗布しても少しも變化しない事である。

そして眼に見えぬ様な小さい痔組織も此藥の作用を受けて消失するのであるから、此療法によりて痔が再發しないのは、この理由によるのである。

第二章 痔瘻 (アナチ)

痔瘻といふものは、肛門の周圍に、小さな穴が出来て其穴から液汁や膿が、漏れて出て来るのを總稱する。其穴が外側丈に開いて肛門の内側に通じてゐないのを、外痔瘻と稱しこれと反對に、肛門内側に穴が開いて居つて外側の肛門に穴が開いてゐないのを内痔瘻といふ。又外側にも内側にも開いて全通してゐるのを全痔瘻と稱する。こ

第二圖 痔瘻の圖解



の外痔瘻とか内痔瘻とかの關係を圖解を以て示すと第二圖の如くである。

穴が一つ丈のを單純性の痔瘻、二つ以上穴の存在してゐるのを複雑性痔瘻と稱する。

痔瘻はどうして發生するか

痔瘻といふものは大概は始め肛門の周圍に膿瘍が出来たり、又は肛門周圍炎といふ急性な炎症があつて、それが膿を持ち其膿が自然と皮膚に破れ出たもの、又は切開して排膿した後其創が完全に治癒せず、小さな瘻口となつて液汁が滲出して茲に痔瘻が形成されるのである。

又そんな急性の周圍炎からでなく、慢性の膿瘍

或は單純な瘍とか疔とかの腫物、或は又撓蟲等の刺戟、又は肛門の損傷等からも起る。

痔瘻の症状（局部症状）

先づ外痔瘻であると、常に膿汁や、粘液汁が絶間なく漏出する。其漏出した液のため附近の皮膚に濕疹等を起して痒ゆい事がある。又或る場合には瘻口が上皮や、痂皮の發生するために一時的に閉鎖する事がある。さうすると排泄物の蓄積によりて、甚だしい痛みを起す事がある。

内痔瘻の場合であると、肛門内の瘻口の中に膿や、便が蓄積して甚だしい痛みを感じる。或は膿液が便通の前後に出たり、又は糞便に附着したりして出る。時には出血を伴ふ事もある。

全痔瘻であると膿が常に漏出する事は、外痔瘻の通りであるが、其上に瘻口から放屁が出たり、糞便が漏出したりするので極めて不快なものである。

複雑なる痔瘻に至りては、症状は一段と進み膿汁や分泌物のために悪臭を放ち、種々な苦痛を訴へるものである。

痔瘻患者の全身症状

痔瘻患者は局所から膿汁や、分泌物が絶えず漏出するものであるから、栄養不良に陥り、一般に貧血を呈して来る。痔瘻の心配やら、不快な爲めに神経質になり易く睡眠が充分出来ない事がある。随つて一寸した事で疲勞する様になる。便通時の苦痛を考へるから自然食物も節したり、いろ／＼な制限をする。そのために、栄養はますます不良となる。青白い顔をして肺病やみの様な風になる。貧血や動悸のために時々軽い咳などが出る。そして時々微熱でもあると、肺でも悪くなつた様に考へる。周囲の人もさう考へる。痔瘻に肺は附物位に思ふてゐる。

終には本物の肺病になる様な場合もある。大凡肺病といふものは、身體が弱つて、

抵抗力の減退した時に發生するものである。斯様に痔瘻で、貧血して惱んでゐる時は肺病の起るのも無理からぬ事である。

又反對に肺患者に痔瘻の併發する事がある。さうすると、直ちに結核性の痔瘻であるかと心配する。

併し考へねばならぬ事は、痔瘻と肺病とは別物である。世間一般に痔瘻といへば直ちに結核性のものである様に聯想するが、よく調べてみると、痔瘻なるものは多くは單純性の細菌から起つてゐるもので、結核菌から來る場合は少ないものである。世人一般が考へてゐる様に、結核性痔瘻といふものは、そんなに多いものではない。

痔瘻の根治療法

痔瘻の根治療法は從來は全く手術に依るのみであつた、即ち痔瘻の瘻管を肛門括約筋と共に切り開き周囲の病的組織を悉く除去して後其創面は縫合せず、其儘肉芽の發

生を待つのである。手術前後は十數日間減食乃至絶食して便通を止めて治療するものである。此様な事が衰弱の原因となつて種々の餘病も引起す事もあり、痔瘻の手術を嫌ふ事が多い。

而して薬剤による根治療法は痔核の場合と同じく卓効を奏し殆んど無痛に且容易に根治するものである。又畑氏によるゴム絲結紮の方法によつて結紮も甚しく容易となり痔瘻治療の上に著るしい効果がある。出血もせず、斯くも容易に簡單に治療が出来る様になつたので、痔瘻を恐るゝ時代は過ぎた様に思ふ。

薬剤の塗布期間は痔核の場合と同じく十日乃至十四日間にして周囲の病的組織悉く脱落し、痔瘻と肛門部間の組織はゴム絲を以て治療の始め又は適當の時期に結紮するのである。此結紮は一週間前後にて離斷されるのである。痔瘻組織脱落後の後療法は痔核より稍永く約一ヶ月間位を要する。

治療期間中は食餌も普通食を攝取する。便通も毎日あつて差支へない。入浴も毎日

許可する。

斯の如くにして、難事とされる痔瘻も大した苦痛もなく、根治するのである。

第三章 脱肛

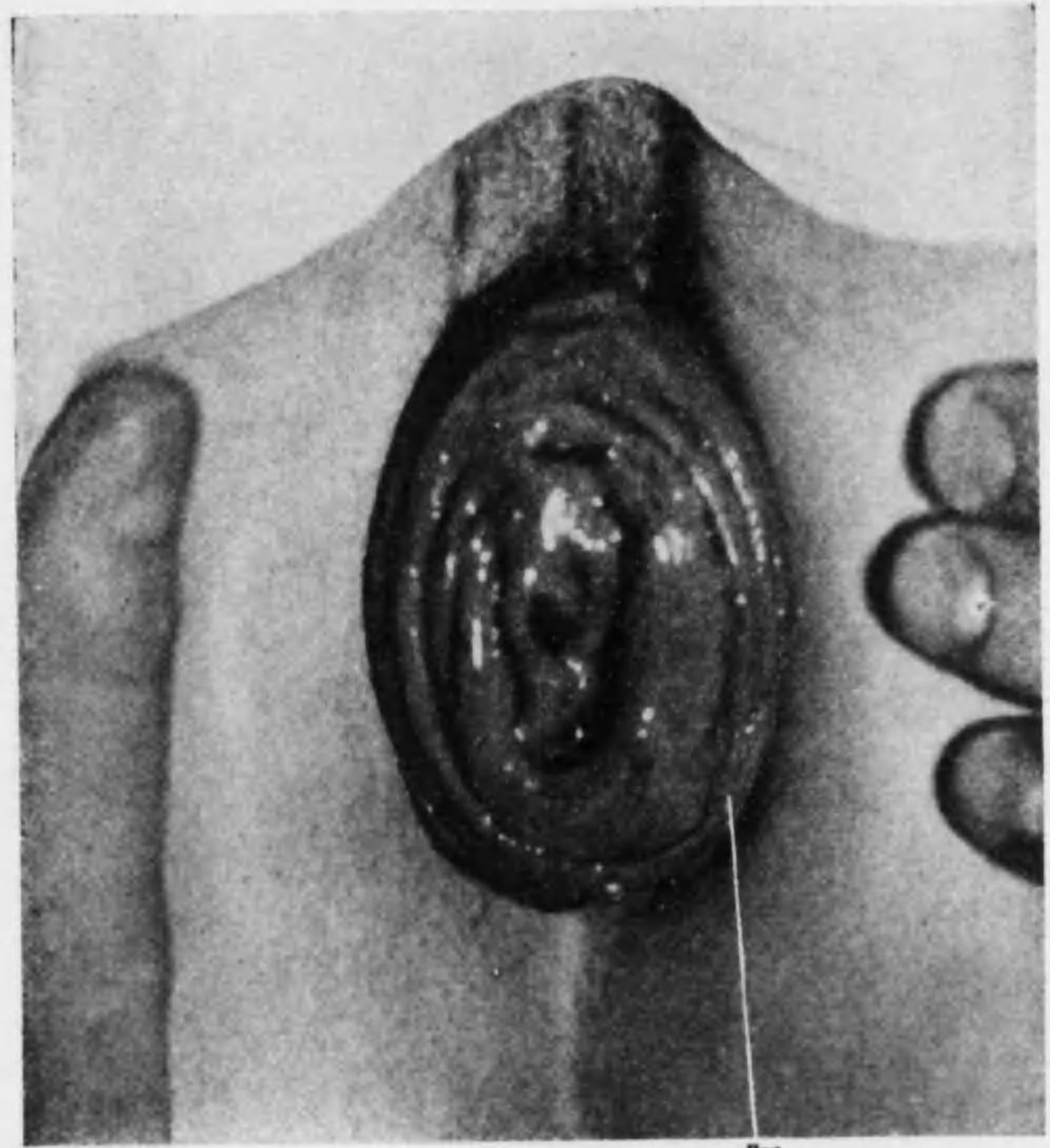
肛門といふものは全長は精々一寸位のものである。精しくいへば、二乃至四糶の長さである。その上部は直腸に接続してゐる。此肛門といふものは排便時に於ても普通は脱出しないものである。

それが痔核等のため肛門粘膜が弛緩して、だるんで、延びて来る。さうすると排便時や、努責したりする時は肛門が翻轉して脱出する。これを脱肛といふ。

甚だしいのになると重いものを持つたり、下げたりしても脱出する。嘔吐や咳をしても容易に脱肛する。

又重いのになると直腸も共に脱出する事がある。これを肛門並に直腸脱と稱する。

第三圖 脱肛の状態を示す。普通脱肛の如くにして、高度のものでもない。



肛門の翻轉したるもの

脱肛の症状

肛門の脱出した時は軽度の場合であると、排便後には自然に還納するものであるがそれが進んで来ると、排便後には手指の力を借りて漸く押込む様になる。脱肛を壓迫し、整復するにも時々時間を要する様になる。それが尙進んで直腸も脱出する様になるとこれが整復には二十分も三十分も時には一時間もかかる様になつて来る、これが爲めに歩行も、外出も出来ぬ様になる。實に厄介千萬な病氣である。脱肛といふものは、多くは痔核を伴なふものであるが、又單純な脱肛もある、脱肛も大きいものになると、小兒頭大位のものもある。

脱肛の根治療法

肛門は管状のもので、内側が粘膜、外側が筋肉層から出来てゐる。

(第四圖参照「正常の肛門組織」)

脱肛は肛門粘膜の異常なる弛緩から来るものであるから此粘膜組織丈を治せば、他の筋肉層は筋肉の弾力性によりて自然と縮少するものである。

如何程大きな脱肛でも病的になつてゐる其肛門粘膜さへ治せば、もう全體が縮少して完全に治癒する。古い何十年間の脱肛も、もう出ない様になる。

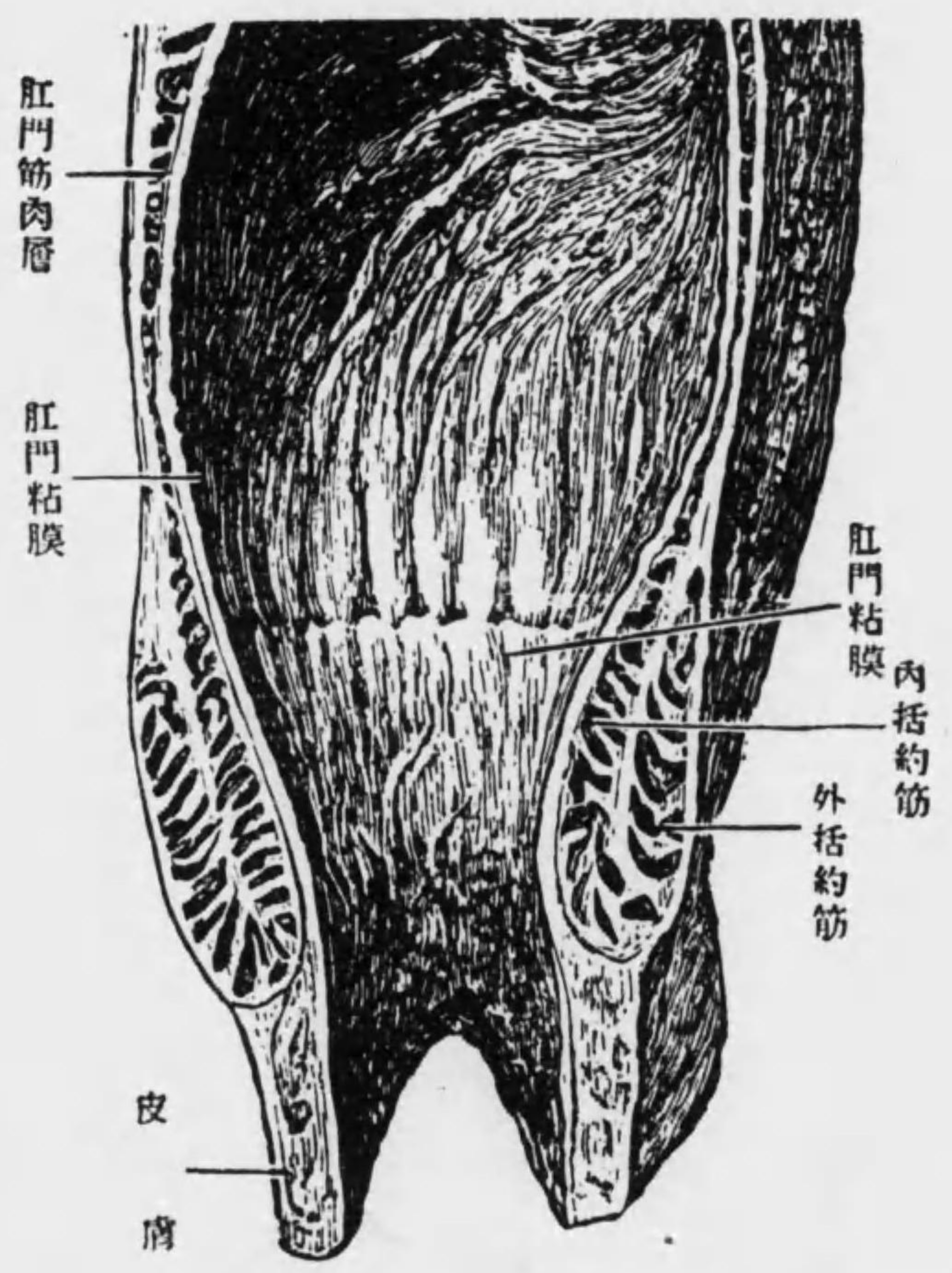
さて斯の如く弛緩したる脱肛部全體に藥劑塗布を持続すること約十日間にて痔核に於ける如く病的の粘膜は全部脱落するものである。斯く脱落したる病的粘膜の部には新しい健全な粘膜が新生してこれに代るのである。

第四章 肛門裂創 (キレチ)

これも痔の一種である。肛門に潰瘍が出来て、それが排便時の開閉運動によりて、劇痛を發するものである。

冬になると足や手に紅裂が出来る。肛門裂創も肛門の紅裂と思へばよい。

第四圖 正常の肛門部門を縦断して示したるもの



肛門裂創の原因

肛門裂創の原因は痔核と同じ様に、便秘が重なるものである。其他直腸炎、腸カタ
ル、分娩等である。其他には異物による損傷である。
要するに其局部の粘膜が血液循環障碍によりて栄養が悪くなり潰瘍が出来るの
である。

肛門裂創の症候

症候の第一は疼痛である。此痛みは裂かれる様な又は剃刀で切らるゝ様な劇烈なる
ものである。そして、其疼痛は肛門全體でなく、其裂創のある所に局限してゐる。
又この肛門裂創の疼痛は便通後に殊に甚しい、排便後二三時間永きは數時間に渡
りて劇甚なる疼痛を訴ふる事がある。
又此疼痛は反射的に肛門括約筋の痙攣を起して疼みは益々増劇する許りである、殊

に寒冷の季節にでもなると、創面が冷氣に觸れた丈でも、疼むといふ、工合で随つて便通も欲せぬ様になつて益々、症状が増悪する。又分泌物のために肛門の糜爛を來したり出血のために貧血状態になつて顔面が蒼白になる。

此等の外に尙膀胱括約筋迄も反射的攣縮を起して尿閉を起す事さへある。

兎に角以上の様な症状で、永く患ふてゐる人は憂鬱症や不眠症になつて、所謂肛門病性神經衰弱となる場合が多い。

肛門裂創の根治療法

本症に於ても他の痔疾と同じく藥劑塗布によつて病的に陥つてゐる肛門粘膜は脱落し此部に健全なる新生の肛門粘膜が發生しこれに代る、斯くして根治するのである。

第五章 肛門瘻痒症

これは肛門の部分がかゆくて、甚だしい瘻痒のあるものである。其瘻痒のために不眠症に陥り甚だしく苦痛を感じるものである。肛門部の皮膚は肥厚して着色してゐる事が多い、これは瘻痒のために搔く爲である。

この瘻痒といふものは仲々の頑症で多くの治療法に反應しない。著者は米國の病院にて多くの瘻痒症患者が萬策盡きて肛門周圍の神經切除術を受くるのを見た事がある。

肛門裂創と同じく甚だしいのになると高度の神經衰弱に陥る。本症も又他の痔疾患と同様に、便秘其他の血液の鬱滯より生ずる事が多數である、又撓蟲等の寄生蟲のために生ずる事がある。

瘻痒症の根治療法

元來此瘻痒症は病的變化を起して居る皮膚、粘膜がその局部の神經を刺戟する事

によりて生ずるものである。それ故に薬劑療法の主眼とする所は、此等の病的變化を起してゐる皮膚、粘膜の全面に薬劑を塗布し、これによりて病變したる皮膚、粘膜を漸次に除去せしめ、新たに生じたる健康組織によりて代らしむるのである。

第六章 肛門周圍炎

肛門周圍炎は肛門の周圍に炎症を起した事を意味するが、大概の場合それはが化膿して膿瘍を形成する。

この膿瘍が自然に外に破れたり、又は切開して排膿したりすると急に楽になつて來るが、創口はいつまでたつても治らない、この創口が治らぬのは、肛門部の組織の關係であるから仕方がない。膿瘍の破れた後に、小さな瘻口を残して、常に膿様な分泌液を漏出してゐる、此様な状態になつてゐるのを痔瘻と稱する。

此周圍炎は多くは急性に來て全身症状を伴ふ事が多いが、又慢性に來てあまり痛

みのない場合がある。

急性の場合では悪寒、發熱して局部の疼痛が甚だしい。

肛門周圍炎の原因

局部を損傷したり、甚しく冷へた様な場合とか、又は硬便のために損傷したり、或は眼に見えない様な傷から微菌が侵入して炎症を起す。又寄生蟲も誘因となる。

肛門周圍炎の根治療法

治療の方法は先づ薬劑塗布によりて排膿を速やかにし、良好なる肉芽の新生によりて治癒せしむるのである。其他の場合には痔瘻の處で説明した様に肛門部と共にゴム絲によりて結紮をする。

それから後の治療は、痔瘻の如く新しい創面の癒合によりて根治せしむるのである。

第七章 痔出血

二四

痔核や裂痔等が存在せずして、頑固な出血を見ることがある、これは肛門の深部に存在してゐる潰瘍又は、粘膜糜爛等から起るものである。此等も又痔の一種である。此等の痔出血も肛門内への薬剤塗布によつて根治する。

第八章 結論

以上述べ來たりし事によつて、痔疾とは如何なるもので、又其根本的な治療法といふものに就ても合點せられた事と思ふ。

痔疾は多い病氣である。大凡人類の三分の一位は、痔疾に罹つてゐる事と思ふ。この大多數の痔疾患者が多年辛抱して、苦惱をこらへつゝ一時おさへや、民間療法でその場を凌ぎ其根本的治療を行はずして、一生を終る人が随分と多い事と思ふ。

痔といふ字はやまいだれに寺と書く、死んで寺にでも行かぬば治らぬものと古來から言ひ傳へ、又現在でも、そんな氣持の人も少なくない事と思ふ。

誰しも病氣を治したいのは山々である、苦痛を好む人は無い。痔の様にジメ／＼した感じを抱いて憂鬱になつて根治療法に志さず事がないのは何の爲であらうか。

古くから種々の治療法の有る事は知つてゐるが、いざ手術となると躊躇する。それは手術に對する恐怖とか苦痛とかも勿論であるが手術しても時々再發した事等を耳にするものであるから尙更躊躇する、よく／＼の事でないかと仲々手術はせぬ。

實際永年の間ためらつて漸く手術をしても再發のまぬがれざる事もある。再發はこれ決して手術の罪ではない。唯眼に見えざる痔組織は如何なる名外科醫と雖も剔出する事は不可能である。恰度頸部に出来る瘰癧がさうである。何度手術しても再發する事がある。大きいのは除去しても、小さいのは除去する事は出来ない。其眼に見えぬ様な小さい病竈が又發育して來る。これを再發と稱するのである。

二五

何れにしても苦痛を堪へつゝ手術をしないのが現状だ。前述の様に手術を恐れる事も勿論であるが、其他に手術をすれば、肺病になる等の迷信も手傳つてゐるのである。これも一概に笑殺すべきものでもない。手術前後の減食、絶食、手術の苦痛恐怖、麻醉等が身體に影響するのは當然の事である。

たま／＼静止状態にある肺病、或は初期の結核患者等は、これ等の影響のために増悪する事も考へられる。

而して今やこの新治療法に依つてこんな心配する時代は過ぎた。

上述の様に極めて簡単に根治するのであるから、痔疾患者にとつては慥かに福音であると思ふ。

貧血は源を絶たれ、蒼白は潮紅となる。神経衰弱も吹飛んで仕舞ふ。そして朗かな人生に生くる事が出来るのである。

附 録

痔疾と榮養との關係

既に述べた様に、痔疾患者は多少とも榮養が犯されてゐる。この榮養不良に成つてゐる原因は申す迄もなく、膿汁の排出される事とか、出血の爲めとか、或は疼痛、不快感、精神的苦悶、不眠、痔疾に依る胃腸障碍、痔のための運動不足、痛むとか、又は痔核脱出等のためには自然と歩行も不自由になる、随つて運動不足となる。此等は何れも榮養が衰へる原因になる。従つて甚しく貧血状態になる。斯うなると抵抗力が減退して餘病も併發するといふ事になる。それで痔疾患者といふものは、常に榮養に注意を拂はねばならぬ。

根治療法を受くる患者は別として、然らざる場合は、痔の様な慢性な病氣の人は、

細心の注意を以て、日常の栄養に注意する事が必要である。

さればその栄養を改善するにはどうすればよいか。

先づ第一としては、ビタミンを充分得る事と便通を良くするためは、新鮮な野菜物を攝る事である。痔は便秘から起るといふ位であるから便通は毎日なければならぬ。

ビタミンは人間の栄養とか生長とか、病菌に對する抵抗力を作る。つまり一般の健康保持のためにはなくてはならぬ大切なものである。

この大切なビタミンと、便秘を防げる一石二鳥の効果あるものは、この野菜である。野菜はこの外に、栄養分として含水炭素を可なり含んでゐる。

第二には同様の目的で果物を攝取する事である。果物は野菜と同じ様にビタミンが豊富で、其上に種々な滋養分を含んでゐる。西洋の諺にも、毎日林檎を食べると醫者はいらぬとさへ言はれてゐる。

みかん、ねーぶる、枇杷、桃、梨子、林檎、バナナ、西瓜、いちご、くるみ、落花

生等何でもよろしい充分に食事毎に攝取すべしである。

序に茲で一言すべきは、ビタミンは煮沸すると消失する場合がある。殊にビタミンCの如きは熱すると分解する。それで野菜でも果物でも生のままで食へば理想的である。然し日本の様に寄生蟲の多い又傳染病の多い國では、野菜の生食は不可能であるが、果物はこの心配がないから生のまま食べられる。随つてビタミンの補給上、果物は大切なものである。

第三には白米をやめて胚芽米、半搗米か、出来れば玄米にすべしである。白米は澱粉の塊りで、脂肪とか鹽類とか、ビタミン等が全然取り去られた粕の様な品物である。栄養を念とする人には常食として最も好ましからざる食品である。よろしく半搗米等の黒い米に換ゆる事である。

玄米、胚芽米と白米の分析表

	蛋白質	脂肪	含水炭素	鹽類	纖維	水分	ビタミン
玄米	七、三	一、九	七四、一	一、五	一、二	一三、九	A B D E
胚芽米	七、一	一、二	七五、六	〇、五	〇、七	一四、九	(少量) A B D E
白米	六、七	〇、四	七七、七	〇、五	〇、五	一四、二	ナ

次には鶏卵、牛乳、バター等を出來るだけ多く攝取することである。鶏卵、牛乳は食品中の王の王、消化と云ひ味や、滋養等の關係は實際理想に近い品である。

卵は半熟にした方が消化は良いが、併し生でも煮ても或は焼いても差支へない。

牛乳、バター等は其儘用ひても、又調理用に用ひても良い。

其他肉類(鶏、牛、豚)魚肉、貝類は適當に野菜等に混じて用ゆる事である。

世には極端なる菜食論者あり、また肉食論者がある。

併し人間の胃や腸は混食に適當な様に出來てゐる。よろしく肉類、野菜を共に食し

て其長短を補ひ、偏食せざる様にする事である。

小兒、青春期等は自ら肉類等の蛋白質を好み、老年に入りては蛋白質を嫌み、菜食を好むは生理的の立場から來てゐる。即ち青春時代は内臓器管の發育上多量の蛋白質を要し、老年期になれば内臓器管の現状維持乃至は萎縮するものであるから、蛋白質は多くを要しない。老年を以て青年を律する勿れである。

痔疾と結核との關係

結核患者は痔疾に罹つたり、痔疾患者が結核に犯されたりする事は一寸述べて置いたが、茲で少しく其因果關係を説明したいと思ふ。

結核に罹患する事は、體力の衰へた場合に來るのである。併し此處で知つて置く必要な事は、人間といふものは殆んど全部が結核菌の所有者である。所有者といふと少しく語弊があるが、誰でも少年時代に結核菌に感染して、身體の何處かの部分に、其

結核菌によりて多少の病變を起してゐるのであるが、(多くは肺門部淋巴腺) 病氣といふ程にはならず、其處で喰ひ止められてゐる。其結核菌は死滅してゐるか、又は生存してゐても繁殖能力が静止してゐる。解剖學者が證明してゐる様に、實際六七歳から十二、三歳迄には全部の人が結核菌に感染する。それが現在の學說であり又事實である。斯くの如くして大なり小なり結核病竈を持つてゐるから、貧血して抵抗力が弱くなれば、噴火口に火が付いた様に静止の結核病竈が活動し、擴大して遂には結核となるのである。

痔出血による貧血、膿液の漏出、便秘、疼痛、精神的苦痛等を長く患ふてゐる中には、結核に罹る事が多くなるのも無理からぬ事である。

又反對に結核患者に便秘を起し易く、痔の原因となる多くの要素を持つてゐる。随つて痔核や痔瘻にも罹る事が多い。殊に痔瘻の如きは結核患者に多いものである。斯くの如く相互に罹り易くなつてゐるものであるから、結核豫防の爲めにも、榮養

の上上からも、強健にする上からも、痔疾を根治せしめて置くことは何より重要な事である。

痔疾家庭療法の可否に就て

「この一文は痔疾患者より家庭療法の問合せに對する私の返信の一部です参考迄に茲に掲出します。」

醫學博士 平田篤次

痔疾患者は自家療法即ち醫者に罹らないで自分で治したいといふ希望を持つてゐる方が多い。此問題に對し愚見を述べてみたい。

痔の家庭療法は可能であるか

私の考へでは痔核にせよ、痔瘻にせよ素人の家庭療法は絶對的に不適當であるといふ事である。私が申すまでもなく痔疾の難治である事は西洋でも東洋でも周知の事實

である。痔といふ字を考へてもやまひだれに寺と書き、結局寺にでも行かねば治らぬとさへ考へた位である。それは昔の事であるが醫學が進歩したといふ現在でも痔は依然として困難な病氣の一つである。専門醫が一生懸命に努力しても仲々六ヶ敷物である。そんな六ヶ敷い痔疾を患者自身で素人療法を行はんとしてゐる。常識で考へても不可能に思はるゝ次第である。

藥劑塗布療法的事も多くの人は簡単に考へて唯單に塗布すれば治るものと思ふてゐる。

假に痔核の場合でも塗り方にも廣狹あり、厚薄も考へねばならず、肛門の解剖學的關係も考慮する要あり、自分では見る事さへも出来ぬ場所である。其上に使用期間の長短等中々條件が六ヶ敷い其等の事が適當に用ひられない時は如何なる名藥でも、良藥でも効果が現はれない。

例へば梅毒に六〇六號が良く効くといふたとて患者自身でどうする事も出来ない、

飲んだとて効くものでない。醫者によつて注射して貰ふて始めて効果が現はると同じ理由である。

痔核でさへその通りであるから痔瘻の様に尙此上に結紮を行はねばならぬ様な場合は尙更である。

世間には澤山の痔疾の賣藥がある。中には根治するといふ麗々しい廣告が出てゐる痔瘻の様な難治なものでも二三週も塗藥すると根治する等と書いてある。

痔に悩んでゐる人が渡りに舟と、其を試みるのも無理からぬ事であるが、其大多數は全く徒勞に歸する。失望しては又乙の藥に走る、こんな事をして悩みに悩んで月日を送つてゐる状態である。

斯様に考へて來ると痔疾の療治は素人が行ふべきもので無く必ず醫師によりてなさるべきものであると思ふ。

痔は果して難治であるか

痔の治療法は世界に於て日本が一番進歩してゐる、従來の手術や注射では再發したり、いろいろの事故が起つて仲々治らなかつたのは事實である、併し近時藥劑療法の出現して茲に難治は過去の夢となつた觀がある。

藥劑塗布療法の治療期間

痔核の場合 第一期（根治藥塗布期）

第二期（後療法）に區別する

第一期即ち根治藥塗布期間は約七日乃至十日間である。極めて大きな痔核であると第一期が二週間も要する事がある。

第二期の後療法は痔核の脱落した跡を修理するのであるから防腐的の軟膏を塗布してゐると漸次に治癒する、此期間は創面の大小にもよるが大凡そ二週間位のものである。

痔瘻の場合

第一期 結紮及び根治藥塗布期

第二期 後療法

第一期は痔核の場合と略同様であるが唯痔瘻の場合では結紮の必要がある。

期間は十日間前後である 結紮の自然に脱落するのも七八日間である

第二期の後療法は結紮後の創面の假性癒着を防ぐ爲め軟膏を創面に塗布する、而して第二期は約一ヶ月間位を要する。

以上は瘻管が一個ある痔瘻の場合であるが、瘻口が二個以上存在する場合は以上の操作を反覆しなければならぬ。

附記

以上で大体の事は説明しましたが不明の點あれば御質問に應じます。宛名は東京市四谷區舟町八番地平田肛門病科醫院内平田篤次宛に願ひます。

Made in Japan

昭和十年五月二十三日第一版發行
昭和十一年四月五日第二版印刷
昭和十一年四月十日第二版發行

定價三十錢

〔送料二錢〕

編輯人

平田篤次

印刷者

東京市杉並區和泉町五〇二
美山久松

印刷所

東京市杉並區和泉町五〇二
美山印刷所

東京市世田谷區上北澤町三丁目八五七

發行所

愛生社

振替口座東京八四三九六番

賀川豊彦序
醫學博士平田篤次著

定價 二十錢
送料 二錢

最新の肺結核療法

肺結核の本態と、最近の進歩したる治療法を最も平易に
説いてある。結核病者は勿論一般世人に一讀を望む!!

發行所 東京市世田谷區上北澤町三丁目八五七

愛生社

振替口座東京八四三九六番

終

終